

機関番号：12603

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20520408

研究課題名 (和文) イエズス会辞書類データベースに基づく、対訳を経由する語彙画定過程の研究

研究課題名 (英文) Lexicographical study of the dictionaries of the Japanese early Christian documents, based on the database of the contemporary polyglot dictionaries

研究代表者 豊島 正之 (TOYOSHIMA, Masayuki)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：10180192

研究成果の概要 (和文)：16 世紀末～17 世紀初頭にイエズス会が作成した語彙集のうち、日本語とポルトガル語・ラテン語との対訳語彙・辞書を中心とする当時の多言語辞書に注目し、イエズス会が作成・印行した実際の日本語・ラテン語テキスト類との語彙の対比を行なうために、ラテン語系辞書の相互照合を進めた他、日本語系字書のデータベース化を進めた。特に、初期キリシタン文献の語彙に就て調査する過程で、初期キリシタン文献国字本の漢字・仮名活字が(従来信じられて来た様な)日本製ではなく、天正少年使節の依頼によって 1586 年に欧州で製作された金属活字である事を初めて突き止め、初期キリシタン文献(国字本)の限定された用字法が、活字を恰もアルファベットの如くに考えた活字製造過程自体に由来している事を解明した。研究成果は、国際学会にて発表し、又、印刷術・書物史に関する国際シンポジウムに招待されて発表を行なった他、査読論文として公表した。

研究成果の概要 (英文)：This research aims to illustrate the inter-relationship among the multi-lingual dictionaries produced in the "Grand-Voyage Era", mainly by Jesuits in the late 16th to the early 17th centuries, with special foci on the dictionaries of Japanese. This research is based on the database of the contemporary (of the Grand-Voyage Era) multi-lingual dictionaries. Aside from the major progress in the amelioration of the database of this multi-lingual dictionaries, the research into the earlier part of the Jesuit Mission Press in Japan, of which the first Japanese metal movable types had been believed as having been coined in Japan in 1590s, has revealed that the movable types were produced in Europe in 1586 by the command of the "Tensho Delegation to Europe". This explains the quite restricted usage of the Japanese KANJI characters as if they were alphabets, because the movable types were made just the way as the Latin alphabets. This discovery has been reported in several international academic conferences, as well as in an international symposium on the history of printing and book production as an invited presentation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：キリシタン文献、宣教に伴う言語学、Missionary Linguistics、イエズス会

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、16世紀末～17世紀初頭にイエズス会が作成した語彙集のうち、日本語とポルトガル語・ラテン語との対訳語彙・辞書を中心とする多言語辞書の製作に当たって選抜された語彙が、どのように画定され、どのような体系的性格を持つかに就て、当時の「大航海時代」に作成された他の多言語辞書との対比によって把握しようとした。

イエズス会の日本語文法に於けるラテン文法の影響は歴然としているが、日本語の辞書編纂に於ける語彙形成と当時の多言語辞書語彙との関連に就ては、一つは典拠原典の探索の困難さにより、いま一つは処理すべきデータ量が余りに膨大である事によって、従来は統合的な研究は困難であった。キリシタン文献のデータベースに就ては、既に研究代表者が過年度までに整備したものがあり、「大航海時代」の多言語辞書に就ても、いくつかのデータベース構築が試みられていたが、それらと日本語の語彙との対照作業を可能とするデータベースは存在せず、語彙総覧辞退が困難な状況であった。

又、日本の初期キリシタン文献の漢字・仮名交じり印刷に就ては、1590年の天正少年使節の帰邦後に日本で作成された金属活字であると信じられて来たが、技術的な観点からの疑問が多かった。

### 2. 研究の目的

本研究は、16世紀末～17世紀初頭にイエズス会が作成した語彙集のうち、日本語とポルトガル語・ラテン語との対訳語彙・辞書を中心とする当時の多言語辞書に注目し、イエズス会が作成・印行した実際の日本語・ラテン語テキスト類との語彙の対比によって、語彙集・辞書として選抜された語彙が、どのように画定され、どのような体系的性格を持つかを把握しようとしたものである。

日本語の辞書編纂に於ける語彙形成と「大航海時代」当時の多言語辞書語彙との関連についての研究は、膨大なデータを処理せねばならない。本研究は、「イエズス会同時代辞書データベース」(LGR)を構築し、キリシタン版「ラポ日対訳辞書」(1595)・「日ポ辞書」(1603)等の日本語対訳辞書を、大航海時代の対

訳語彙の一つとして見直し、語彙の選択に対する新たな視点を与える事を目指した。

又、この結果を応用して、日本イエズス会の出版物である「キリシタン版」を、主として語彙の側面から、世界的な印刷史・書物史の中に位置付ける事をも目指した。

### 3. 研究の方法

日本語の辞書編纂に於ける語彙形成と「大航海時代」当時の多言語辞書語彙との関連付けのために、次の多言語辞書・語彙集類を包括するデータベース「イエズス会同時代辞書データベース」(LGR)を構築し、校正・洗練を進めた。

・Calepinus：多言語辞書(1592 Venezia版) 27,028 見出し語(以下同)

・Cardoso：Latin-Portuguese / Portuguese-Latin (1592 改訂版) 27,362 語/12,732 語

・キリシタン版「ラポ日対訳辞書」(1595) 31,536 語

・キリシタン版「日ポ辞書」(1603) 31,748 語

・キリシタン版「Flosculi」(ラテン語名句集)(1611)

・古本節用集類(1570～1610)

・Barbosa：Portuguese-Latin (1611) 16,414 語

・Nizolius：Cicero 語彙集(1595) (刊行年次順)

Flosculi は、名句集であって語彙集ではないが、ラテン語辞書類の典拠原典の探索のために入力し、Nizolius は、それらの更に典拠となった文献(Ciceroの全用語・用例総覧)であるために入力したものであり、この2点によって、Calepinus 経由でCicero等の用語が当時の多言語辞書に流入した実態が、統計的に判明した。

これらの多言語辞書は、現代のポルトガル語とは綴りや形態自体が異なり、現代人には利用し難いだけでなく、辞書相互間の語の同一性の認定も困難である。このため、豊富な異形態の見出し語を持つFreireの辞書(Dicionario da Lingua Portuguesa, Rio de Janeiro 1940～1944)の見出し語を利用して、語の同定の試行も行ない、国際学会での報告も行

なった。  
又、こうした語彙探索の過程で、初期日本キリシタン版の漢字字体に就て、異体字が存在しない・文字の使い分けに大きな制約がある事等に気づき、原本調査を繰り返して原因を追究し、最初の国字本キリシタン版の漢字・仮名活字が(従来信じられていた様な日本製ではなく)欧州での製作に掛る事を解明するため、初期キリシタン文献の全ての日本語活字の画像データベースも作成し、後期版との比較を行なった。

#### 4. 研究成果

##### (1) 多言語辞書データベース

本研究で構築した多言語辞書・語彙集を包括するデータベース「イエズス会同時代辞書データベース」(LGR、上記)に就ては、国際学会で報告し、デモを行ない、一部は、<http://joao-roiz.jp/LGR/>より、既に広く一般に公開している。このデータベースによって、各辞書の擁する語彙の規模・相互の重なりが判明した。

この結果、(従来から推測されていた通り)キリシタン版「ラポ日対訳辞書」こそが当時最大のポルトガル語辞書である事が具体的に示され、更にこれとキリシタン版「日ポ辞書」が、その後のポルトガル語辞書の語彙集成にも影響を与えている可能性がある事が、初めて統計的に示され、これは国際学会での招待発表として公表し、その後に論文として公刊した(発表論文①)ので、国際的な反響が大きかった。

最大の問題は、語の同一性の認定であり、定まった正書法を持たない当時のポルトガル語、ラテン語の豊富な異形態を同定する方法に安定したものが見出せない事が難題であった。このため、豊富な異形態見出し語を持つFreireの辞書(上記)による見出し語同定を進め、一定の成果を得たが、結果は十分とは言い難い。幸い、Flosculi、Nizoliusの見出し語を用いて Cicero 由来語彙に就ては、同定が可能であるため、これを用いて各辞書内の異形態の同定を進める事で、更に包括的な同一性認定が可能となると見込んでおり、これに就ては、更に後継の研究を進めている。

##### (2) 初期キリシタン文献の漢字活字

日本の初期キリシタン文献の漢字・仮名交じり印刷は、1590年の天正少年使節の帰邦後に日本で作成された金属活字であると信じられて来たが、最初の出版は1591年であり、且つ欧文(ラテン)活

字に就ては、その製造能力が無い事が当時の公式報告にも記載される状況でありながら、僅かに一年の内に、活字父型の削り出し、母型のパンチ、活字の鋳造と組版・プレス刷版までの全行程を完遂したとは、技術的には到底了解し難いものであった。

これに対し、本研究では、1586年にリスボンを訪れた天正少年使節が、その地で刊行した Catechismi Christianae Fidei に、僅か6文字ではあるが、後のキリシタン版で使用されるのと同じ活字による印字がある版本が複数現存し、且つそれらの印字の配置が傾きに至るまで完全に一致する事を根拠として、最初の日本語活字が、1586年に天正少年使節の委託によって欧州で作成された事を初めて指摘・論証した。即ち、日本で行なった工程は、活字作成を含まず、組版・刷版のみである。これは、単に従来の(技術的に了解困難な)活字国内製造説を退けただけでなく、最初の日本語活字が、ラテン活字と同じアルファベットとして製造された事により、異体字が存在しない事、従って文脈による異体字の使い分け(例:接尾語の「等」と自立語の「等」は異体字として区別されるのが普通)が出来ないために不自然な用字になる事、等の懸案を全て解決するものである。

これを複数の国際学会で発表したところ大きな反響があり、印刷史・書物史の国際シンポジウムに招かれて招待講演を行ない、更に大きな反響を得て、更に他の地域の当時の印刷技術に就ての知見の交換を行なう事が出来た。

本研究で構築した多言語辞書・語彙集を包括するデータベース「イエズス会同時代辞書データベース」(LGR)は、ほぼ予定通りに構築し、一般公開にも至っているが、日本語関係の語彙(節用集類)と「日ポ辞書」との連携を十分に行なうには至らなかった。これに就ては、後継の研究を進めている。

イエズス会の初期キリシタン文献の日本語活字に就ての成果は、漢字だけに限定されたものであって、仮名は手つかずである。この点は、漢字・仮名それぞれの文字同一性に就ての理論化が必要であり、既に基本案は公表した(発表論文⑤)が、更に深化が必要である。

又、初期版に就ての成果をイエズス会の後期版キリシタン文献に応用する事も未了である。後期版に就ては、一応の集約を行なった(発表論文③、⑥)が、詳細に就ては、更に原本調査を含む精査が必要であり、これに就ても、後継の研究を進めている処である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

- ① TOYOSHIMA, Masayuki Base-de-datos de diccionarios portugueses para el estudio de la historiografía de la lengua japonesa de mil quinientos [西文: 1500年代の日本語研究のためのポルトガル語辞書データベース] (Assunção, Carlos, Gonçalo Fernandes, Marlene Loureiro (eds.) Ideias Linguísticas na Península Ibérica (séc. XIV a séc. XIX). 2 Vols. Münster: Nodus Publikationen). vol.2 865-875, 2010.11 [査読有]
- ② 豊島正之 文献から言語音の歴史を辿るとは(上野善道監修「日本語研究の12章」明治書院),325-339,2010.6[査読なし]
- ③ 豊島正之 前期キリシタン版の漢字活字に就て (国語と国文学、平成22年3号、45-60),2010.3[査読有]
- ④ 豊島正之 通事ロドリゲスの故郷セルナンサーリェを訪ねて -- 通事自身の言語を探る,「日本近代語研究」5(ひつじ書房),277-292,2009.10[査読有]
- ⑤ 豊島正之 漢字の同一性に就て (池田証寿 編「漢字情報と漢文訓読」(北海道大学大学院文学研究科)、pp.186-189),2009.8[査読なし]
- ⑥ 豊島正之 キリシタン版の文字と版式,「活字文化史の現在」(府川充男・小宮山博史編)(勉誠出版),69-103,2009.5[査読なし]
- ⑦ Toyoshima, Masayuki (2008) O Vocabulário da língua de Japão (1603) como base para compor um vocabulário português [葡文: ポルトガル語辞書編纂の淵源としての1603年刊日ポ辞書] (Congresso internacional de Língua portuguesa, filosofia e literaturas de língua portuguesa, p.483-485, CCAA Editora, Rio de Janeiro, ISBN 978-85-7778-176-8) [査読有]

[学会発表] (計 5 件)

- ① TOYOSHIMA, Masayuki Creation of

Typefaces and Repertoire of Characters in the Early Jesuit Mission Press in Japan (Symposium "Legacies of the book -- Early missionary printing in Asia and the Americas", 2010.9.24--26), University of San Francisco, USF Main Campus, Fromm Hall, USA), 2010.9.24 [招待発表]

- ② TOYOSHIMA, Masayuki Stages in typesetting Japanese Characters in the Jesuit mission press in the late 16th centuries (VI International Conference on Missionary Linguistics, 2010.3.16 - 2010.3.19, ILCAA) 2010.3.16

- ③ TOYOSHIMA, Masayuki Método de identificar verbetes em base-de-dados dos dicionários portugueses medievais [西文: ポルトガル語辞書データベースに於ける語の同一性の認定方法] (VII Congresso internacional de la sociedade española de la historiografia linguistic [第7回スペイン歴史言語学会国際大会], 2009.11.6, Universidade de Trás-os-Montes e Alto Douro, Vila Real, Portugal) [招待発表]

- ④ 豊島正之 キリシタン版「ひですの経」の書誌;共同プロジェクト「宣教に伴う言語学」平成21年度第1回研究会;2009年11月16日;東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

- ⑤ 豊島正之 用紙から見るキリシタン版(「活字印刷の文化史」梓行記念セミナー、印刷博物館、2009年8月29日)[依頼講演]

[その他]

ホームページ等

<http://joao-roiz.jp/LGR/>

<http://joao-roiz.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

豊島正之 (TOYOSHIMA, Masayuki)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号: 10180192